

3. 生活費の支出構成比は、各費目によって家族の構成員数より弾力性(e)の値にかなりの差異を生じた。その中食物費においては、大体プラス傾向を示し、住居費はマイナス傾向を示して、人員効果のあることが認められた。また、支出費目によっては年次的に各種の経済的要因の影響を受けて、その人員効果に相違が見られた。

D-7 家族の構成員数が家庭の生活費構成におよぼす影響

梶山女学園大家政 山口 久子

1. 各家庭における消費ないし生活費の態様は、各種の要因による影響によってかなりの差異を生ずるが、それらの要因のうち、家族構成のいかんもかなりの影響を与えるものと考えられる。ところが今日までの家族経済研究においてこの方面の考察があまり行なわれていないので、この問題を家族構成に関する中でも、今回は、特に家族人員数が生活費構成におよぼす関係を取りあげて分析研究した。

2. 研究資料は、総理府統計局家計調査を用い、全都市勤労者世帯を対象とし、昭和29年～35年にいたる期間とした。

各年の消費支出構成比を算出し、その構成比が家族人員数の増減により受ける影響を知るため、その量的計測方法として、「各費目支出構成比の家族人員に対する弾力性」を用いた。

弾力性の測定方法として、(1)支出構成比函数 $Y = A \cdot X_1 a_1 \cdot X_2 a_2 \cdot \dots$ (A, a_1 , a_2 , : パラメーター) を設定し、最小自乗法によって推計した。(2)前式より弾力性(e)を誘導するYを X_2 で偏微分した。